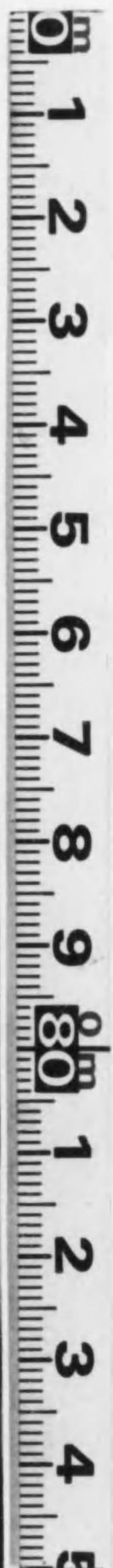
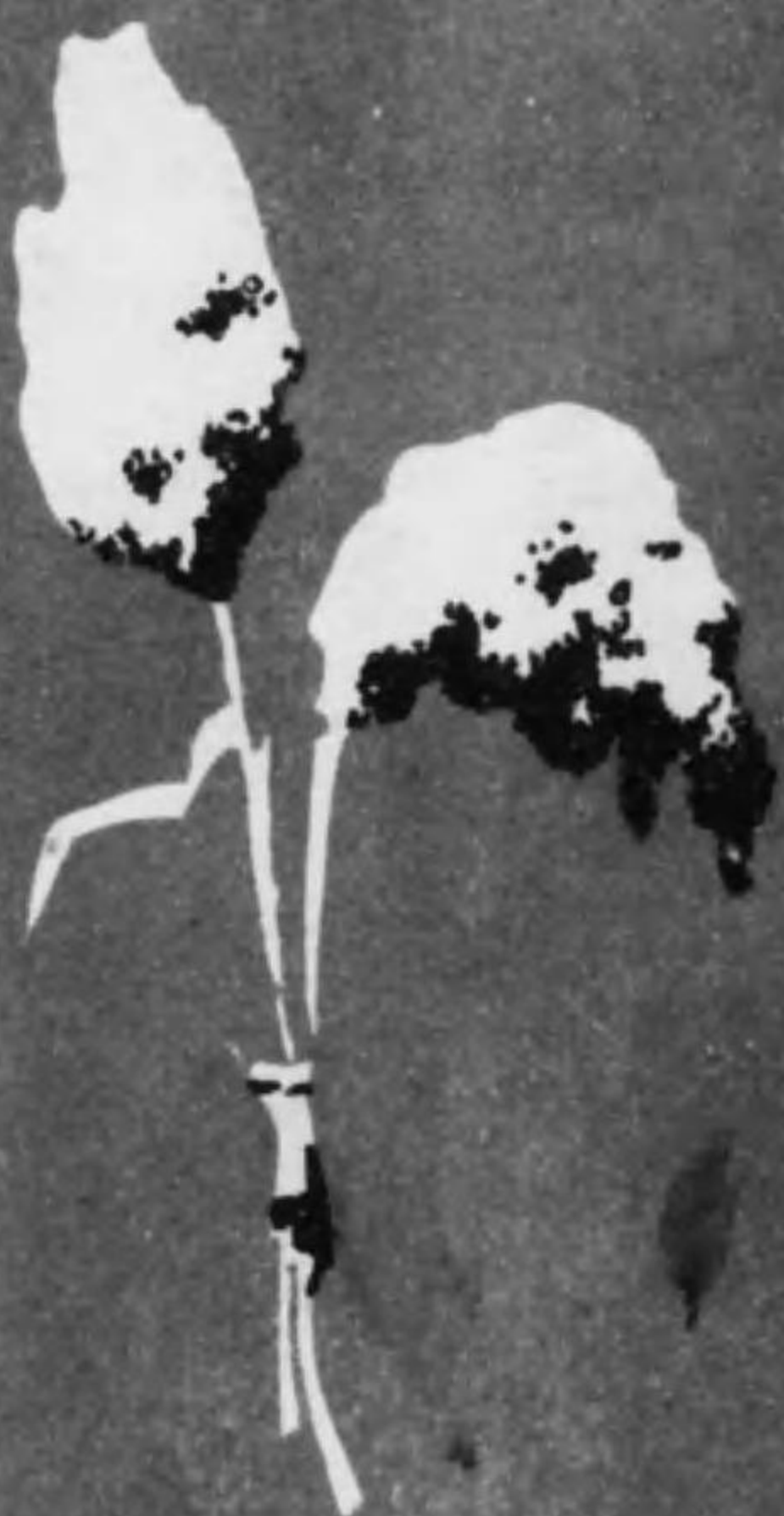


要覽

滿洲資源館

特253
42



始



特253
42



覽

發行所寄贈本





讀

東北大学図書印

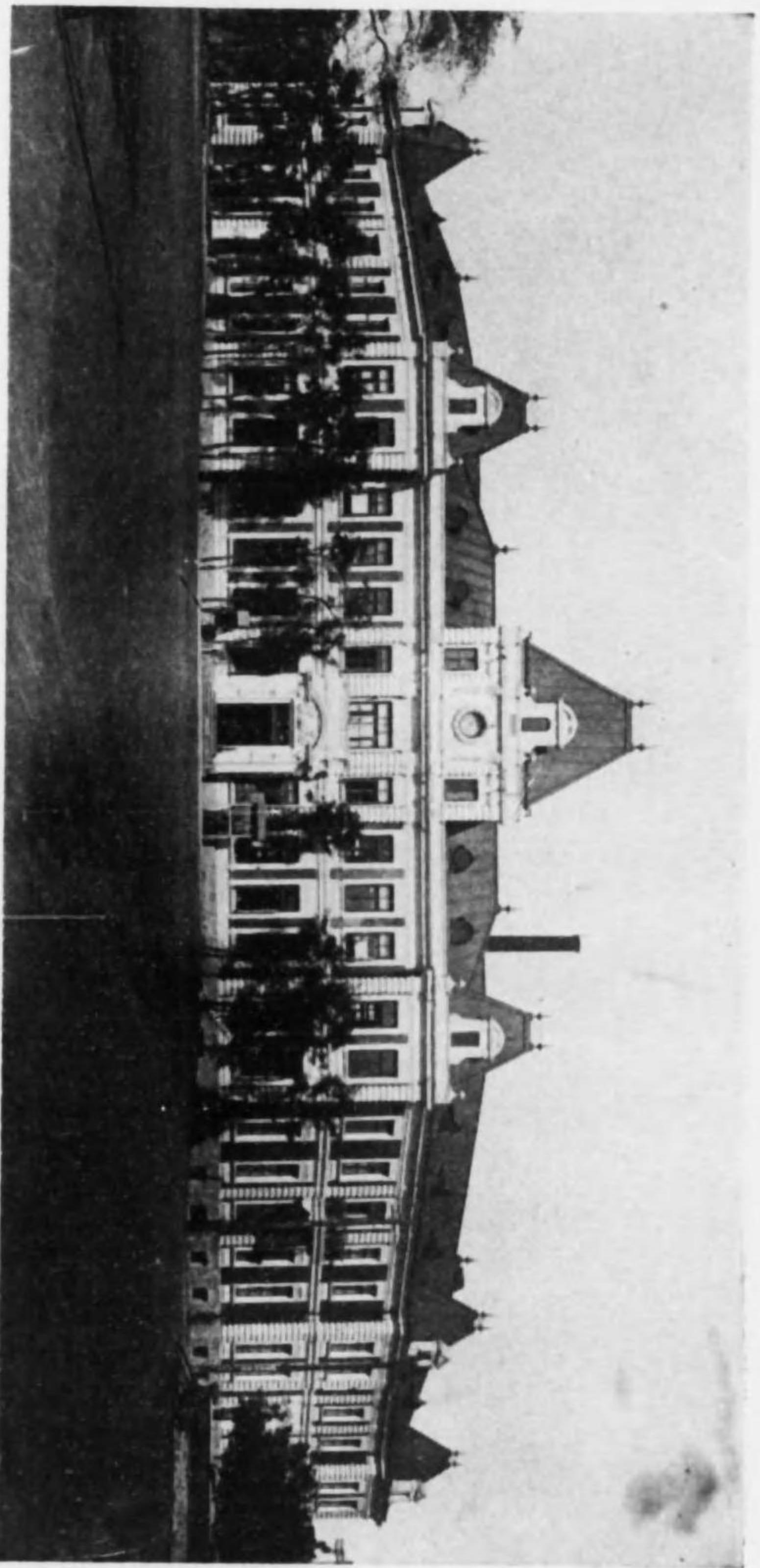


凡 例

- 一、本書は本館陳列品の解説を目的として編纂した。
- 一、記述は主として參觀の順序に従ひ陳列室竝に陳列品の排列に従つてなしたが一部は其の順序に依らなかつたものもある。

昭和九年十月

滿洲資源館



滿洲資源館正面

滿洲資源館要覽

沿革

滿蒙博物館設立の必要なることは從來屢々識者に依つて提唱せられ且つ近時一般の興望となつて居たが種々の事情は容易に之が實現を見るに至らず甚だ遺憾とせられて居た。

偶々當社地質調査所に於ては年來其蒐集に係る滿蒙の地質、礦物竝に其利用に關する標本及圖表類を陳列し篤志研究者の參考に供すると共に來訪者に觀覽せしめつゝあつたのであるを基礎として新に農産、林産、水産及び其他の諸原料品の實物標本を加へ滿蒙の資源を網羅する陳列館を設立することとし大正十五年三月之が開設に著手し同年十月より一般の觀覽に供するに至つた。而して本館の名稱は初め滿蒙物資參考館と稱したが昭和三年十一月滿蒙資源館と改稱し越えて昭和七年十二月滿洲資源館と改めた。

本館開館以來在滿日支人の來館絶えることなく特に各地よりの滿洲視察者は必ず參觀するを常とするが畏くも昭和三年十月二十三日 高松宮殿下、昭和四年四月三十日 山階宮茂麿

王殿下、昭和五年五月八日 秩父宮殿下、又同月二十七日、李鍵公殿下、越えて昭和六年五月二日 北白川宮永久王殿下、同月十五日、閑院宮春仁王殿下、昭和八年四月二十八日 朝香宮孚彦王殿下、李錫公殿下の御台臨を仰ぎ奉りたるは本館の最光榮とする所である。

業務の概要

主として滿洲に於ける資源の紹介に力を注ぎ農産、鑛産を始め各種原料品及其加工品の實物、模型竝に是等の參考資料を蒐集陳列して之に適切なる説明圖解を加へ併せて是等の基礎的或は學術的研究の一般を示し以つて其利用開發に資すると共に産業の振興發達に寄與せんとするものであり且つ將來の滿蒙産業博物館の完成を期するのである。

開館及休館

定期休館を除き左記の通り毎日開館して居る。

開館時間	自一月至三月	自四月至九月	自十月至十二月
	自午前九時	自午前八時	自午前八時
	至午後四時	至午後四時	至午後三時

定期休館日

滿鐵會社創立記念日 四月一日
祝祭日
歳末歳首 自十二月二十八日至一月五日

觀覽の注意

觀覽は隨意であるが左記の事項は注意せられたい。
館内所定の場所以外で喫煙せざること。
館内に於ては係員の指圖に従ふこと。
陳列品を模寫、撮影又は特に熟覽せんとする場合は係員に申出らるゝこと。
陳列品に就て詳細に知りたい場合は係員に申出らるゝこと。

陳列品説明

滿蒙模型室



滿洲國の範圍 滿洲國とは從來吾々に依つて滿蒙と稱せられた地域で昭和七年三月中華民國の羈絆を脱して新たに建設せられたところのものである。即ち南部は萬里の長城を境として中華民國に連り、又渤海、黃海の岸を走つて東南部鴨綠江、豆滿江を介して我朝鮮に接し、東部及北部は露領西伯利亞に、西部は外蒙古及察哈爾に至る地域を指稱するのであり、建國當初これを奉天、吉林、黑龍江、興安、熱河の五省に分けてゐたが最近興安省を除きたる四省が更に黑河、龍江、三江、濱江、間島、吉林、奉天、安東、錦州、熱河の十省に分括せられた。此面積約九萬二千方里、日本總面積約四萬三千六千方里の二倍一分に當り、約三千萬の人口を包容して居る。

滿洲の地勢 滿洲の地形は之を二大別する事が出来る。一つは山岳地帯で他は平原の地方である。山岳地帯は共に急峻、高峰を競はないが東に長白山脈、西は陰山山脈及大興安嶺が

連互し北方に小興安嶺の蟠居があつて共に略北東から南西に走つて居る。平原の地方は、南滿では、遼河及松花江上流の流域を中心として一望千里の沃野が展開し亦北滿では、松花江、嫩江の流域は南滿に二倍する曠野となり共に滿洲の穀倉を誇つてゐる。

河川の大なるものはシベリアの境を流れる黑龍江及其支流である松花江、嫩江、烏蘇里江があり又滿鮮の境界をなす鴨綠江、豆滿江、南滿の沃野を迂曲する遼河等がある。

滿洲の氣候 滿洲は亞細亞大陸の一部である關係上所謂大陸的氣候の特徴を有つて居る。氣温は一般に六、七、八の三箇月が最高氣温で、九月に至り急激な下降を初め十月より翌年三月迄が冬である。而して夏冬共同緯度に位する他地方より寒暑の差が著しく激しい、又降雨は六、七月の所謂滿洲の雨期を除いては一般に乏しく、年降雨量は一箇年五百耗乃至七百耗で、之を日本内地と比較して約三分の一に該當するに過ぎない状態である。尙日照時間が長くて風も相當あり、蒸發量が多く且つ乾燥度も日本内地に比較しては高い、斯様な氣象上の特異は滿洲農業をして必然的に乾燥地農法を採用せしめ、且つ農作物の種類にも多大の影響を來して居るものと考へられる。

滿洲の交通 滿洲に於ける鐵道は大連を基點として北行新京にて北滿鐵道に連なり其中心

奉天から東南して安東にて朝鮮鐵道と結ぶ二幹線と支線若干を含む滿鐵線、哈爾濱を中心東は綏芬河、西は滿洲里、南は新京で滿鐵線に連なる北滿線は兩者結んで滿洲を丁字型に貫通し交通の大動脈をなして居る、更に齊々哈爾濱より南下滿鐵線四平街と結ぶ平齊線、本線鄭家屯より通遼經由奉天線大虎山に結ぶ大鄭線、尙新京より吉林を經東走圖們に至る京圖線は北鮮鐵道と連絡し近き將來完成する羅津港を經て日本本土と最短距離を結ぶ、又吉林から海龍經由奉天に出る奉吉線、京圖線拉法哈爾濱間の拉濱線、奉天山海關間の奉山線、北滿の濱北、齊北の兩線竝に洮索線、關東州の金福線等滿洲の總鐵道二十有餘、其總延長六千八百餘に及んでゐる、其他目下建設中の數線も近く完成の豫定である。

海港としては世界有數の大連港、滿鮮の境安東、遼河河口の營口及歴史的に有名な旅順の四港と日本海に臨む浦鹽港も滿洲に近く重要な海港の一つである。尙最近の敦圖線の開通に伴つて北鮮諸港も滿洲國物資の吞吐口として大切な港となつてきた。

又滿洲國に於ける河川は何れも舟運の便があり、尙これらは結氷期に入ると共に忽ちに變じて立派な陸上道路の役目をつとめ荷馬車の交通は全く自由となるのである。

滿洲の鑛産

滿洲は古來地理的關係に於て世界文化の地帯と隔絶し天然資源の状態は分明せず更に清朝時代にあつても同朝發祥の地として他民族の移住を全く許さず加ふるに封禁令を下して資源の開發を禁ずる等自然的にも人為的にも其内容は尙ほ尙ほに放棄せられてゐたのである。莫大に包藏せらるゝ鑛産資源に關しても我國が日露戰後此地に文化的開發を行ふに至つて初めて組織的調査が開始されたのであるが之とても事變前にありては舊軍閥の排外政策と治安の不整備に依て充分なる調査をなし得ず僅かに舊奉天省、吉林省南部地帯の所謂南滿一帶の概查を終へたるに止まり舊吉林省北部、黑龍江省、興安省、熱河省の如きは未だ其實狀は判明せられてゐない状態である。

而して滿洲に出現する鑛物を現在迄の結果に徴すれば金屬鑛物にあつては金及び鐵を除いては其賦存比較的乏しいが之に反して有用な非金屬鑛物類は多種多量に埋藏せられて居る事明らかとなり、この特徴は日本内地の本資源と全く相反するの現象を呈し鑛産工業成立の立場より觀て兩國鑛産資源が必然的に有無相通するの狀態に置かれて居る事を感じしめられるのである。

鑛産陳列第一室

主なる陳列品

滿洲重要鑛産物標本
滿洲産金屬鑛物各種標本



滿洲の金屬鑛物 滿洲の金屬鑛物は其種類極めて尠く鐵鑛（別項參照）を除いては比較的貧弱である。

金及砂金 滿洲の金及砂金は前清時代から普く探鑛試掘せられ其産地は數百を算へる事が出来るが、現在は僅かに土民の農閑期に極めて原始的土法に依る採金を稀に見るに過ぎないが、北滿黑龍江畔の砂金地の雄大なるは既に世上に喧傳せられたところで將來を期待せられて居る。

銅 鑛 滿洲の銅鑛は概ね石灰岩が古期鹽基性噴出岩による接觸鑛床或は交代鑛床をなして現出するが、何れも鑛床の規模は狭小の様である。間島の天寶山銅鑛は相當世に知られた處であるが既に數年以前休止し又吉林省盤石銅山も支那人の企業として一時名を擧げたる

も永續せず、其他安東縣の西南方銅鑛嶺、本溪湖の東、馬鹿溝も曾ては採掘せられたこともあるが間もなく休止し、現在に於ては安奉線盤嶺が小規模の採掘をなしつつあるに過ぎない。

鉛 鑛 鉛鑛は其産地として知られた處十數箇所以上に及ぶも共に鐵床の状態不規則であつて、大企業に適するものが乏しい。奉天省鳳城縣下即ち安奉線通遠堡驛の西方青城子は稍大規模に採掘せられた鉛鑛山である。

鑛床は結晶質石灰岩中に胚胎せる裂隙充填鑛床で品質良好とせられ、大正十三年に於て鉛鑛二千六百餘噸、山元精鍊に依る粗鉛九百五十噸を得活況を呈したこともあるが、最近は不況の爲採掘を中止し探鑛のみを繼續して居る。

硫化鐵鑛 硫化鐵鑛は古期變成岩中の石英脈に隨伴して鑛脈をなすものと古生代炭層中に扁桃狀又は細脈狀をなして出るものゝ二つがある、前者に屬するものは安奉線林家臺及楊木溝で後者に屬するものは煙臺及本溪湖等である、而し何れも鑛床の規模大でなく未だ大企業に適せる鑛山は發見せられて居ない。

鑛産陳列第二室

主なる陳列品

滿洲北支那炭田分布圖
滿洲産各種石炭標本
滿洲市場炭標本
撫順炭田及露天掘模型



石炭 石炭は滿洲鑛産物中の大宗である、各縣炭田を持たないもの殆んどなく特に撫順、新邱、本溪湖、西安等著名なもの、外に尙多數あり其總埋藏量は三十五億噸と概算せられてゐる。

今滿洲の炭田を地理的分布の上から見るときは大體に於て奉天省の中部及吉林省の東南部に多く撫順、本溪湖、西安、牛心臺、煙臺、田師付溝、蛟河、缸窰、五湖嘴等の重要炭田點在し北滿地帯は未だ充分な調査が出来て居ないが比較的大炭田に乏しいと見られて居る。然し札賚諾爾、密山、穆稜、鶴立崗等重要な炭田がある。尙遼西に八道濠、大窩溝及其附近、

亦熱河省には北票、新邱等の大炭田がある。更に是等の炭田を地質時代から謂ふと二疊石炭紀及侏羅紀に屬するもの最も多く第三紀のものは稀であるが後者には撫順炭田を包擁する爲現在に於ける經濟的價値は遙かに前者を凌いで居る。

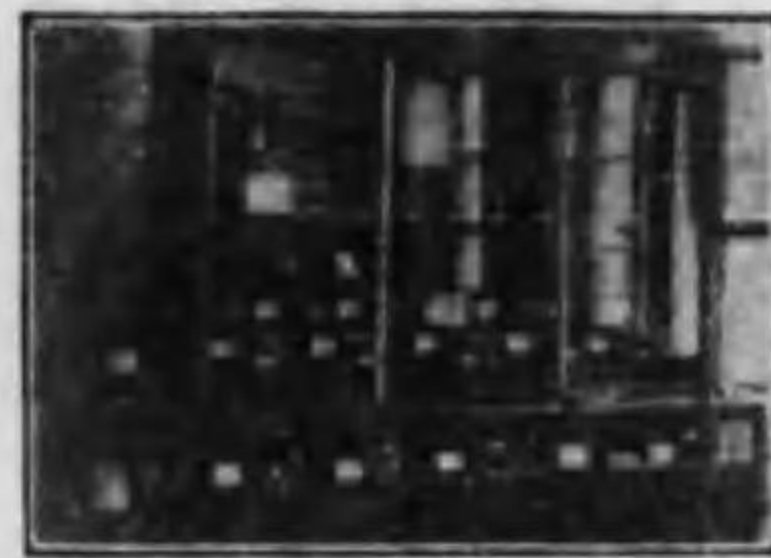
油母頁岩 撫順炭鑛區内に於ける油母頁岩の總埋藏量は五十四億噸と推算せられるところで其集約的賦存は世界に其比を見ない。品質は場所に依つて相當の差があり良好とは稱し難いが平均六%の採油を見込む事が出来る。従つて前記埋藏量から四%の重油を採集するとしても二億萬噸以上の重油を得られる譯で如何に偉大な存在であるかを知る事が出来る。

現在撫順炭鑛では露天掘採炭に伴つて採掘する油母頁岩の一部處理を目的として年額百三十六萬噸を消化する製油工場が設立せられて一箇年七萬噸の油母頁岩原油を採取し四萬三千噸(揮發油一、〇〇〇噸分簡)の重油、約一萬五千噸の粗製パラフィン、四千二百噸の骸炭、約一萬七千噸の硫酸アンモニアの製造を見て居る。

鑛産陳列第三室

主なる陳列品

滿洲産鑛標本
鞍山貧鑛處理法解説照明陳列
本溪湖産鉄鑛標本
鞍山鑛大孤山鑛山模型



鐵 鑛 滿洲産鐵鑛石の品質は概して良好ではないが其分布廣く埋藏量は極めて莫大である。石炭其他の原料の豊富なる事と相俟つて將來世界製鐵地と期待せられるところでも重要な鑛産物の一つである。

産地は奉天省遼陽縣鞍山一帶及弓張嶺、本溪縣下廟兒溝、又鴨綠江の上流沿岸竝に安奉線沿線等に散在して居る。

特に鞍山鐵鑛石は、主として赤鐵鑛に屬し昭和製鋼所の原料鑛石として採掘せられるもので其産地は同製鋼所を中心として約十五軒の半圓弧上に點在し東西鞍山、大孤山、關門山、

王家堡子、櫻桃園等の鑛區あり其埋藏確定數量のみでも三億噸以上と稱せられて居る。

滿洲の製鐵 滿洲に埋藏せられる鐵鑛の莫大なるは前述の通りであるが之が製鐵業も古くから行はれ寨馬集、城廠、通化、杉松崗等の土法製鐵は相當世に知られ、尙大正七、八年の好況時代に於ては亦各地に小製鐵業の簇出を見、盛觀を呈したが其後の不況に何れも其影を洩し今日では、鞍山、本溪湖の二大製鐵所のみとなつた。

昭和製鋼所は昭和八年六月滿鐵鞍山製鐵所を合併成立されたものであるが現在三百噸爐二基、五百噸爐一基の熔鑛爐を有し、年平均約三十萬噸前後の出鉄を見てゐる。尙同所には目下附設工場として骸炭工場、ベンゾール工場、硫酸工場、タール蒸餾工場、ナフタリン工場、硫酸工場、耐火煉瓦工場等があり夫々各種の製品を市場に出して居るが昭和十年には製鋼工場の建設が完成する豫定であるから同所の鉄鋼一貫作業の實現も遠からず行はれるわけである。本溪湖製鐵所は中日合辦本溪湖煤鐵公司の經營に係り明治四十四年十月開設せられ現在年額十二萬噸の出鉄能力を持つて居る、本製鐵所の原料鑛石は本溪縣下廟兒溝鐵山の磁鐵鑛を使用して居る。

鑛産陳列第四室

主なる陳列品

滿洲産工業原料鑛石
滿洲鑛産加工品標本



菱苦土鑛 アンゲリサイト 滿洲の菱苦土鑛は其鑛床の雄大な事は世界に其比を見ずと云はれて居る。産地は滿鐵本線大石橋、分水、海城各驛の東方一帯に廣大な地域を占め其の埋藏量は平地以上のみでも數億噸を下らず其實在數量に至つては驚くべき多量に上るものと觀られて居る。本鑛床は特殊耐火材料として貴重なるのみならず其の他各種の用途を持つ貴重な工業原料である。特に吾社中央試験所に於て研究中の本鑛石から金屬マグネシウム採取が工業化される曉は其價値は益々大となるであらう。

苦灰石 ドロマイト 苦灰石の滿洲に於ける分布は主として奉天以南であつて關東州及前項菱苦土鑛産地方面に賦存する量のみでも莫大なものと推察せられて居る。

目下は主として大連市の對岸海猫屯附近の海岸から採掘せられ八幡製鐵所を始め日本内地著名工場に耐火材料として發送せられる量は約六、七萬噸に上り、尙此外大連に於て南滿鑛業會社其他で塗料其他特殊建築材料に加工販賣せられて居る。

耐火粘土 滿洲産耐火粘土は其品質極めて優良で日本内地産は遠く之に及ばない。産地は奉天省復縣五湖嘴、遼陽縣下煙臺炭坑附近其他であるが更に近年關東州内に於て品質優良にして鑛量亦豊富なるものが發見せられて本鑛石資源の價値を益々増加せしめて居る。尙五湖嘴産耐火粘土は復州鑛業會社の手に依つて日本内地著名工場に供給せられつゝあり、其量は年額約三萬噸に及んで居る。

是等鑛業原料が滿洲に極めて豊富なるに著目した吾社中央試験所では各般の試験研究を施行し耐火材料は勿論陶磁器等の製出に成功し今日之等の事業は大連鑛業會社、大華鑛業公司の手に依つて製造販賣せられて居る。

珪石 關東州内に賦存する珪岩は其量は頗る莫大であり中には品質佳良の部分も尠くない、又、片麻岩、花崗岩中の石英脈は純粹雪白で優良な硝子原料である。前者は現在大連鑛業會社に於てダイナス煉瓦の原料に、後者は南滿硝子會社の硝子原料に供せられて居る。

滑石 滑石は奉天省海城縣下及蓋平縣下の一部に分布し其鑛床は大ならざるも無數に散在し品質は概して優良である。日本内地の消費量は全部當地産を以つて供給しつゝある状態で重要な鑛産資源の一つである。主として原石のまま輸送せらるゝが營口には滿洲タルク製粉會社あり一部は製品となつて販賣せられて居るものである。

石綿 滿洲に於ける石綿の産地は數箇所を擧げる事が出来るが稼行せられるものは關東州内和尚屯鑛山一箇所である。同産地の鑛石は纖維は短いが弾力に富み品質は優良である、原綿のまま日本内地に輸出せられて居るが一部は地元にて加工、滿洲各地に供給せられて居る。

石版石 本品は緻密な石灰岩の一種で比較的最近の發見である。其産地は奉天省復縣下で未だ普く利用せられる處まで行つて居ないが獨逸産石版石に優るとの稱あり將來を期待せられて居るものである。

螢石其他 螢石は關東州内及蓋平縣下等に數箇所の産地を有するが上質のものが比較的少い。其他重晶石、金剛砂、石灰石等重要なものがある。

鑛産陳列第五室

主なる陳列品

滿洲産寶石類標本
關東州産アメシスト標本



滿洲に於ける寶石類の産出は現在の處殆ど無いと稱すべきであるが關東州内に小規模な紫水晶の出現あり數年以前から日本甲府に送り加工の上販賣せられるものがある。本品は極めて優美な淡紫色アメシストである。亦奉天省岫巖縣下の所謂岫巖石は主として淡青色半透明の軟玉で古くから著名である。

滿洲には産出しないが翡翠は最近來滿洲玉類中最も盛んに賞用せられるものである。鑛物學上輝石類に屬し硬度六・乃至七・〇比重三・二乃至三・五で其色相深緑艶麗なるを特色として居る。

地質學標本第一室

主なる陳列品

滿洲各地産化石類
マンモス牙其他の骨髄



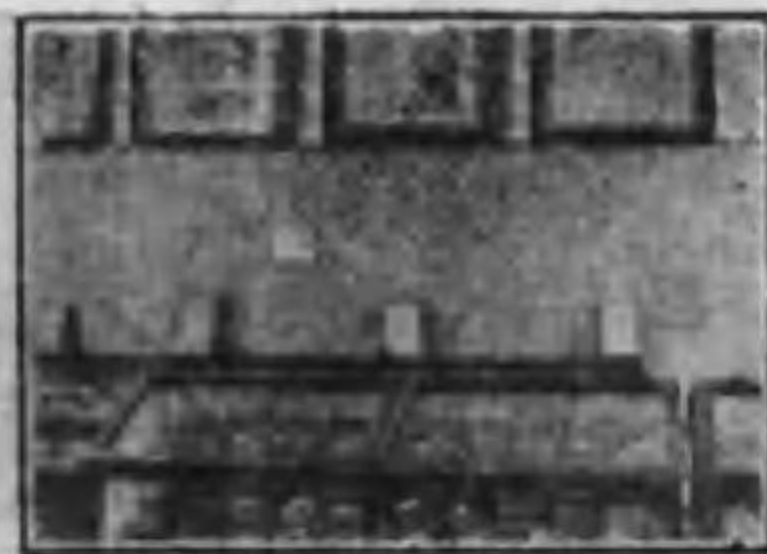
滿洲各地から發掘せられる化石の種類は甚だ多様である。亦日本内地と地質竝に其構成を異にして居る爲珍奇、異色のものも尠くない。三葉蟲(蝦の類)、燕石(三味線貝の類)及直角石(烏賊の類)の如き古生代の動物化石は其好例である。又煙臺、五湖嘴、本溪湖等の炭田からは歐米各地に産せるものと同様な石炭紀特有の植物化石鱗木、蘆木等を産する。今日迄に發見せられた中生代の化石は日本内地産に比して其數は劣るが、海龜の卵と推定せられる珍物を産し、新時代に入つては多くは日本内地と共通のマンモスの齒牙及骨髄其他の哺乳類の化石を産する。何れも古生物學上又地質學上貴重な資料である。

正室

地質學標本第二室

主なる陳列品

滿洲産岩石各種標本
地質圖幅(四十萬分の一)各葉
地質圖幅用岩石化石標本



滿洲の地質をみるに北支那及朝鮮と共に地質學的歴史上、亞細亞大陸の東縁をなして居る關係上夫等と極めて相類似して居る。即ち其特徵として古期岩層最もよく發達し海成層の最も若いものは上部石炭紀のもので夫れ以後は之を缺き、代ふるに石炭及植物化石を出す陸成層、主に湖沼其他淡水の沈積層から成つて居るとせられて居る。

因に滿蒙に於ける地質調査は吾社地質調査所が二十年來行つて來た處で大正七年既に百萬分の一地質圖幅の完成を見、其後引續き縮尺四十萬分の一地質圖幅調製に著手し既に大連、大孤山、營口、鳳凰城、公主嶺、桓仁、奉天等の圖幅を完成發表せられて居る。



主なる陳列品

世界各國産鑛物標本
日本、朝鮮産鑛物標本
寶玉原石標本各種
天 隕 鐵

し斯界に誇るに足る資料である。

本陳列室に出陳せるは右標本中、特に鑛業上参考となるべきもの及び特に色彩、結晶等比較的珍奇有益な資料だけを摘出したものである。

尙本館は右参考品の大部を豫備室に整理陳列し特別研究者に開放して居る。

附 記

本室に陳列せる天隕鐵は蒙古大興安嶺山脈中にて發見せるもので、其重量六八・八七兩あり日本第一の田上號に次ぐ大きさである。

石材陳列室

主なる陳列品

土木、建築石材標本各種
裝飾用石材標本各種

滿洲の石材 滿洲に於ける石材は日本内地の如く種類が多くは無いが主として花崗岩、片麻岩、石灰岩等が使用せられて居る。尙奉天以北の平地方面では閃綠岩、安山岩、玄武岩等の火成岩も有用な石材とせられて居る。

裝飾用石材としては關東州金州、三十里堡附近、復縣金家城子等に産する渦卷狀石灰岩、蠟蟲狀石灰岩等が利用せられて居る。之を加工研磨するときは極めて風雅な模様、色彩の大埋石となる。



滿洲の農産

滿洲の氣候、風土其他の天然要素が農業に好適であることは既に周知の事實である。而して廣茫滿蒙の地に於ける農耕適地は約三千三百萬町歩と推算せられ其内既耕地は南部滿洲滿鐵線を中心として千五百萬町歩に達して居る。殘餘一千七百萬町歩は所謂未耕地に屬し北部滿洲其他であり最近の情勢に依れば之等は急速な開發を豫想せられ既耕地に對する農法の改良增收と共に滿蒙の地は正に世界の穀倉と云ふべきである。

尙現在の農作物の主要なるものを舉ぐれば普通作物としては大豆、高粱、粟、玉蜀黍、小麥、水稻、陸稻等で特用作物では青麻、大麻、亞麻、煙草、棉花、柞蠶等である。

其産額何れも莫大に上り我國の食糧並に工業原料の供給地として極めて重要な位置を占めるものである事は言を俟たない。

農産陳列第一室

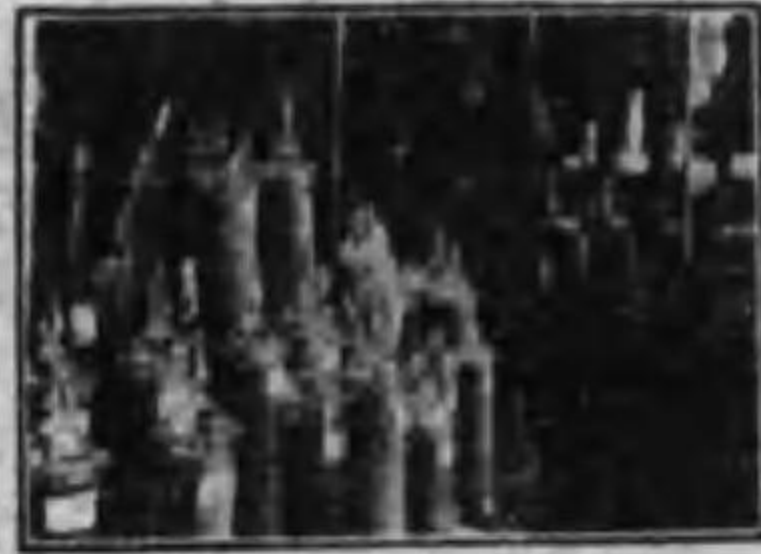
主なる陳列品

滿洲産大豆各種標本

滿洲産大豆品種標本

滿洲産大豆加工品標本

滿洲大豆栽培順序寫眞



大豆 大豆は滿洲農作物中の首位を占め大約四千萬石の生産と推算せられて居るところで世界總産額に對して六十三%以上を占めて居る。而して滿洲大豆の消費を觀るに南北滿洲の油房で搾油原料として約千七百萬石の消費を見、大豆のまゝ日本、朝鮮並に歐洲各國に輸出せられる量千二百萬石餘は地元消費として食、飼料其他となつて居る。

右の如く滿洲大豆は世界各地の大豆需要に應じつゝあるが之は主として多量生産と廉價の爲で其品質の點に至つては在來品種の粗悪に加へて其調製粗放の爲甚だ遺憾の點が多い、吾

社農事試験場では之が改良に著手し苦心研究の結果は在來種に比して油分一〇%、反當收量四〇%前後増加、亦外觀佳良である所謂改良大豆の育成に成功し吾社亦之が種子を獎勵配布の方針をとりつゝあるので最近では市場に相當量の改良大豆の出廻を見るに至つた。斯くして品質の改良は今後急速に行はれて行く見込である。

油房工業 滿洲大豆千四百萬石を消化する油房工業は正しく滿洲工業界の王座を占めて居る。最近の調べに依ると南北滿洲に於ける工場數四百餘其製造能力一箇年豆粕六千萬枚以上と稱せられて居る。現在その製油方法は壓搾法で丸粕の製造が主となつて居るが最近吾社中央試験所に於て研究完成せるアルコール抽出採油の方法は世界的發明と推賞せられるもので此方法に依るときは優良なる豆油に加ふるに貴重な副産物を得、其豆粕は白色を呈し粉末にせる外觀は麥粉と變りなく且つ完備せる榮養價を保持して直に食、飼料として使用し得るが本法に依る製品は最近創立された滿洲大豆工業會社の手に依り近く市場に出る事とならう。其他滿洲に於ける硬化大豆油工業等は注目に値するものがある。

農産陳列第一室

農産陳列第二室

主なる陳列品

滿洲產高粱各種標本

滿洲產粟、玉蜀黍各種標本

其他普通作物各種標本

滿洲農家模型



高 粱 滿洲に於ける高粱の年産額は大約三千五百萬石と推定せられて居る。其用途としては地方農民の食料として消費せられ一部は燒酎製造の原料となり家畜の飼料にも供せられて居る。其他年額二、三百萬石の輸出を見るが何れも用途は同様である。尙高粱を工業原料として着目せられるときは本品から特殊のアルコールを誘導する事が出来、又優良な澱粉の製造原料として着目せられて居る。

之を要するに滿洲に於ける高粱は我國の水稻に比すべき農作物で子實は主として食、飼料及醸造原料として使用せられ葉、莖等はアンペラ其他の建築材料、家畜飼料、燃料等餘す所

なく各方面に利用せられるものである。

粟 粟の年産額は約二千六百萬石と推算せられ滿洲農産物中大豆、高粱と共に三大農産物の一つである。子實其他も大體高粱と同様主として地方農民の食糧に消費せられて居る。近時朝鮮に相當量の輸出を見、鮮人の食料となつて居る。即ち鮮米の日本内地移入に依り我國食糧問題に間接寄與しつゝあるものと云ひ得る。

五蜀黍 玉蜀黍は支那名を包米と云ふ。滿洲南部を主産地として北部に至るに従つて其栽培は尠くなつて居る。最近の年産額は約一千二百萬石前後と推定せられ、高粱、粟と共に地方農民の主要な食糧品である。工業原料としては、醸造原料にも混用せられるが、本品から優良な澱粉を製造し得られるので將來此の方面の原料に使はれるであらう。

小 麥 滿洲の小麥は其生産額大約一千萬石と概算せられて居る。其栽培は、南滿よりは北滿に適するもので北滿沿線の或る地方では南滿に於ける大豆の如く、地方産額の首位を占める。従つて同地方には新式製粉工場が多數あつて其原料となつて居る。最近の情勢よりして北滿地方の急速な開發は本品の將來を期待する事が出来る。

水 稻 滿洲に於ける水稻の栽培の歴史は極めて最近の事に屬し、主として移住鮮人の

手に依つて其水田の開發が行はれた。現在は僅々百六十萬石前後の生産高であるが、滿洲の平原地方即ち、遼河、松花江、牡丹江、嫩江等大河の流域地方では、水田開發可能の場所甚だ多く其將來は充分に期待すべきである。尙吾社農事試驗場では之等水稻の試作研究の結果其獎勵品種を決定し熊岳城、奉天、大榆樹及撫順に採種田を設置し滿洲米の品種向上を計つて居る。

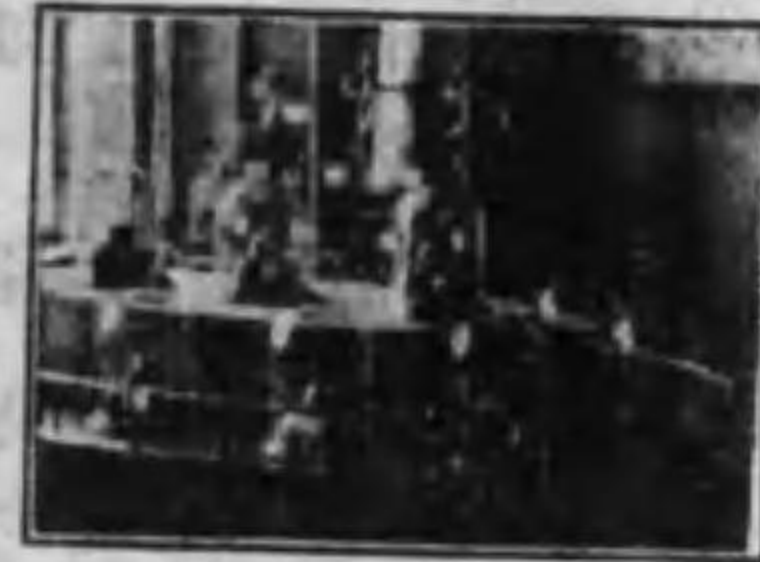
陸 稻 支那名は粳子又は早稻である。品質は不良の部に屬するが早生で良く滿洲の風土に適する。現在の産額は百八十萬石内外と推測せられて居るが産額増加の趨勢を示しつゝある。地方的に分布状態を見れば新京地方、吉林地方、四平街地方、海龍、新民、黒山の地方に栽培が多い。主なる品種名を挙げれば新京無芒、大青毛、全線稻、光頭兒、牛毛稻子、四平街、鐵嶺等である。

其 他 其他小豆、綠豆、黍(糜子)、稗(稗子)、蕎麥、豇豆(豇)、菜豆(蠶豆)、粳米豆(菜豆の一種)等は亦相當量の産出あり我國に對する供給作物として注視すべきものが尠くない。

農産陳列第三室

主なる陳列品

滿洲產果實各種模型
滿洲在來蔬菜模型



果 實 滿洲南部殊に關東州並に其隣接地帯に於いては果樹園の經營が最も盛んである。又氣候、風土其他の天然要素が好適で同地方は將來果樹の一大生産場たらんとして居る。現狀は其歴史比較的新しい爲、其の推定面積約五千餘町歩で收穫高二百萬貫餘であるが近き將來には二千萬貫以上の莫大に上る豫定である。而して重なるものは苹果で八〇%以上を占め梨、葡萄、櫻桃、桃等が之に亞いでゐる。

蔬 菜 關東州内の金州、普蘭店等は蔬菜類の名産地として古來其の名を得た土地である。従つて在來種の中でも極めて優良なるものが尠くない。晩近急激な消費増加を辿れる大連の如きは其六〇%以上を日本からの輸入に仰ぐ状態で蔬菜栽培の研究は必要事の一つであらう。

農産陳列第四室

主なる陳列品

柞蠶及其加工品標本
棉花、麻類標本
煙草其他の特用作物標本



柞 蠶 滿洲に於ける柞蠶飼育は約百年前に始まつたと稱せられて居る。近年斯業の發達特に著しく、滿洲の産物中重要なものゝ一つになつた。主なる産地は奉天省蓋平、岫巖、寬甸、安東の諸縣下で鳳城、海城、莊河各縣が之に亞ぎ其他の各縣も幾何かの産額を示し、柞蠶繭の價格一千五百萬圓と稱せられて居る。

煙 草 滿洲特に吉林省南部地方の煙草は古來、有名な産物の一つであつた。各地に廣く栽培せられ、其産額七百八十萬貫前後と謂はれて居る。尤も在來葉は何れも品質不良に屬するので、最近吾社農事試験場に於て米國種黄色煙草の試作研究の結果、極めて優良なる成

績を得、之が栽培の奨励中である。

棉花 滿洲の棉花栽培は奉天以南の地にて、遼陽附近は特に多い。現在の作付面積は約六萬町歩、其生産額二千萬乃至二千五百萬斤とせられて居る。現在滿洲に栽培せられて居る在來棉は約四、五品種を數へるが其大部分は優良と稱し難い。關東州内に於て米國の陸地棉の試作の結果は極めて良好なる成績を示し目下極力奨励中である。

大麻及青麻 滿洲に於ける麻類の生産は大麻約一千六百萬斤、青麻約二千四百萬斤と推定せられて居る。前者は奉天、吉林兩省の東方山間地帯を主産地とし、後者は奉天省遼陽、牛莊等低濕地方を主産地として居る。兩者とも將來産額増加の趨勢にある。

忽布 忽布栽培は極めて新しい事に屬し、其産額は現在僅少に過ぎないが品質佳良で我國に於ける忽布の需給關係から考察して極めて有望と認められる新作物である。

油料子實 滿洲に於ける油料子實としては大豆を除いて落花生、胡麻、荏胡麻（支那名蘇子）、大麻子（支那名小麻子）、蓖麻子（支那名大麻子）等を擧げる事ができる。此等の油料子實は何れも尠からぬ産額を示しつつあり、日本に於ける植物性油脂原料の供給上極めて重要な位置を占めて居る。

滿洲の林産

滿洲の林産地帯は主として黒龍江省、吉林省、奉天省の三省に包括せられて居ると云ふべきである。其内特に囑望せられて居る地域は松花江及其支流の拉林河、豆滿江、牡丹江、鴨綠江及其支流の渾江各上流一圓の地域と北滿鐵道東部線の森林地帯並に同西部線の大興安嶺山脈及吉林省三姓の地方等で之等の森林は大部分其基礎的調査は終つて居るが松花江本流北部及黒龍江流域地方等は未だ充分な調査は出来て居ないが其量は莫大であると想像せられる。

即ち從來の調査を基礎として滿蒙の森林地帯の推算は其面積に於て約三千六百萬町歩、立木總蓄積量一五〇億石とみられて居る。

林産陳列第一室

主なる陳列品

滿洲産主要樹種標本

主要樹種 滿洲の森林に於ける樹種は總數三百五十餘種を擧げられて居るが現在重要樹種として取扱はれて居るは大體左の如きである。

A 針葉樹

テウセンマツ(紅松、樺松)

タウヒ類—エゾマツ(魚鱗松) テウセンハリモミ(魚鱗松)

タウシラベ(臭松)

モミ類—テウセンモミ(杉松) テウセンカラマツ(黃花松)

カラマツ類—ダフリカカラマツ(黃花松)



B 闊葉樹

モンゴリアナラ(柞樹) アムールシナノキ(椴樹)

マンシウシナノキ(椴樹) マンシウクルミ(楸樹)

ヤチダモ(水曲柳)

カヘデ類—イタヤカヘデ(色樹) マンシウカヘデ(白牛)

オニメグスリ(蒙新子) キハダ(黃玻璃)

カバ類—マンシウシラカンバ シラカンバ(白樺)

テウセンミネバリ(黃樺樹) コヲノヲレ、ヲノヲレカンバ(楚榆)

ニレ類—ハルニレ、オヒヨウニレ、ノニレ、オホミノニレ(榆樹)

ドロノキ(青楊樹) テウセンヤマナラシ(白楊樹)

カライスエンジュ(槐樹) マンシウハシドイ(跑馬子)

林産陳列第二及第三室



主なる陳列品

滿洲主要樹種標本
 滿洲森林分布圖
 材木加工品標本
 鴨綠江筏模型

主要樹種の分布

滿洲の森林地帯に於てテウセンマツは奉天省、吉林省の針葉樹中の主林木の位置を占め、山脈の中腹並に小山嶽の上部に分布し、蓄積量は豊富である。

モミ類及タウヒ類も大體前記テウセンマツに相等しい。カラマツの類は大興安嶺山脈中の針葉樹林の主林木をなし、同地方に大面積の純林をなして居る。

潤葉樹ではアムールシナノキ最も多く、吉林省を中心として森林地帯の峰通りに多く、又モンゴリアナラ及コヲノヲレカンバも全滿洲の山地一帯に分布して居る。カバ類は興安嶺山

脈中の潤葉樹の主林木、ヤマナラシ類は滿洲中部丘陵地に多い。ドロノキは滿洲一帯の低濕地の場所に繁茂し、カヘデ類、キハダ、ヤチダモ、マンシウクルミ、カライヌエンジュ等は中部滿洲に分布し黒龍江省北部には稀である。

滿洲材の出廻 鴨綠江右岸並に渾江流域より生産し、鴨綠江を流筏して安東地方に出廻るものを鴨綠江材と稱し、吉林奥地即ち京圖鐵道沿線より伐採せられ京圖鐵道によつて吉林に出廻るものと、松花江流域より伐採せられて流送により吉林に出廻るものを吉林材と稱し、豆們江上流諸流域より伐採せられ、豆滿江を川流して會寧、清津、雄基、土里等に出廻るものを總稱して間島、琿春材と稱し、北滿鐵道に出廻るもの及び松花江により哈爾濱に出廻るものを北滿材と云ふ。此等の年代伐採量は三百四十萬石乃至五百十萬石にして、平均四百二十萬石である。

林産陳列第三室は、安東に於ける林産加工工業としてのパルプ及支那紙製品の標本である。又、ベニア板は哈爾濱露人經營の工場製の實物見本である。

滿洲の畜産

滿洲と總稱するが所謂滿洲と蒙古の地帯とは種々の點に於て著しい相違がある。之を畜産の方面から窺ふも滿洲方面では所謂有畜農業を基礎としての生活で兩者の一つを缺けば農業形態をなさない状態で各戸必ず家畜の飼養を見る。

又蒙古地方では未だ農耕を行はず原始的遊牧の時から離れ去らず水草を追ふての牧畜こそは彼等大部分の生活の方法である。斯の如き状態で兩者は其趣を著しく異にして居るが滿洲は正しく家畜の天地と稱して過言ではない。

斯くの如く滿洲には各種の家畜類を飼養せられ其數量も夥しいものがある。只飼育者に於て改良増殖の途を講ぜず自然のまゝに放任する結果はその生産品の品質稍劣るの憾があるが要するに滿洲は家畜類の天地であるばかりでなく大なる畜産資源包藏の地である。

畜産陳列第一室

主なる陳列品

種羊改良標本

種羊改良順序照明陳列

カラクトール種羊改良標本



蒙古種羊の改良 滿洲に居る種羊類は大約四百萬頭と推定せられ其羊毛生産九百萬封度と推せられて居る。然るに蒙古羊の羊毛は強度、伸度共外國産羊毛に比して著しい遜色があり且粗毛多く細毛と混生して毛質の一定を見ず従つて其用途自ら局限せられ僅に下等絨に混用する

かカーペットウールとして使用せられるに過ぎない、吾社農事試験場に於ては此點に改良を志し苦心研究の結果は米國種メリノーを改良原種として供用する時は毛質を改善し併せて其産毛量を二乃至二・五倍に増加せしむるを立證し得た。即ち此方法を假に滿蒙の種羊四百萬頭に適用する時は一回改良種に於て一千八百萬封度、二回改良種にて三千萬封度の大量となり加ふるに其毛質を向上せしめ被服原料に供せらるゝに至る譯で極めて緊要な事業に屬する。

畜産陳列第二室

主なる陳列品

豚の改良成績標本



豚の改良 豚は支那人にとつて缺くべからざる食用で満洲の各農家には必ずこれを飼養して居る。而して満洲豚の在來種は大體大型、中型、小型の三型に分れ共に極めて旺盛な蕃殖力を持つが一般に晩熟で屠肉歩合少なく優良でない。吾社農事試験場では是れが改良試験を施行の結果、パークシア種の交配に依り二回雜種に至つて體格、肉質の改良に加へ早熟性に變改せしむる事に成功し獎勵の結果は急速且つ廣く普及し現に關東州内の如き八五%以上に及ぶと稱せられて居る。

畜産陳列第一室

畜産陳列第三室

主なる陳列品

滿洲産皮革標本

各國産皮革參考品

羊毛皮各種標本



皮革 滿洲の家畜類の豊富な事は周知の事に屬する。従つて出廻る皮革原料の數量も亦莫大である。然るに既述の如く滿蒙に於ける家畜類飼育管理は粗放を極め寧ろ自然に放任せらるゝ有様で種々の被害を受ける關係上其の品質は大部分劣等品である。即ち滿蒙に於て皮革工業の振はないのは茲に原因し居ると見る事が出來、之が改良は緊要の事に屬する。目下吾社中央試験所で極力皮革加工の研究中で其成功を期待せられて居るところで將來其勃興を望まれる工業の一つである。

畜産陳列第四室

畜産陳列第四室



主なる陳列品

滿洲産毛製品標本
 蒙古乳製食料品標本
 獸骨加工標本
 毛皮利用標本

毛製品 滿洲産毛製品の數量は比較的に少い。毡子（滿洲人用敷物）、毡帽子（滿洲人用敷物と帽子）、毡鞋（滿洲人用敷物と鞋）、氈子（絨氈）等で多くは極めて原始的な手工業に屬する製品である。

新式工業としては、奉天に滿蒙毛織會社があり、主として羅紗、毛布、毛絲等の製品を市場に出して居る。

尙獸骨の生産高は莫大に上るが、其出廻高は今日尙比較的に少い。上物は主として日本に獸骨のまゝ輸出せられ、一部は當地滿蒙殖産工場で骨粉の製造原料に消費せられて居る。

畜産陳列第五室



主なる陳列品

滿洲産野生動物毛皮標本
 獨逸製毛皮イミテーション標本
 タルバカン生態標本

毛皮 滿洲の地帯は古來毛皮類の名産地として知られ清朝時代は關外三寶の一に擧げられて居た程である。近年外國に於て毛皮類の需要頓に増加し各國は支那及滿蒙の毛皮類に着目するところあり市場に於て有力な位置を占むるに至つた。最近に滿蒙からの輸出高約一千萬圓と稱せられて居る。主なるものは元皮類を初として狗皮、猫皮、貂皮、兔皮、狐皮、灰鼠皮、旱獺皮等で黑龍江省、吉林省の北部産を優良とせられて居る。

滿洲の水産

滿洲の生産は大體二つに區別する事が出来る。一は關東州を中心とした製鹽業並に鹹水漁業で、他は河川湖沼に於ける淡水漁業である。

關東州は滿洲の最南端に突出し東西に黄海、渤海を控へ回游の魚族豊富にして其漁業に觀るべきものあり、又沿岸に干瀉地多く、天然要素と相俟つて、天日に依る製鹽事業は天恵の産業を形成して居る。

蒙古方面に於ては古くから宗教上の關係から嚴重な禁漁撈の地帯であつた。即ち哈爾濱附近の松花江又は呼倫池附近等、河川湖沼に淡水魚族極めて豊富に棲息し、今日重要な水産資源の一つである。

關東州製鹽田模本

水産陳列第一室

主なる陳列品

關東州産天日製鹽標本
關東州天日製鹽鹽田模型



製鹽 關東州は降雨日數、降水量共極めて少なく、加ふるに大氣乾燥し適當な風速は蒸發力を旺んにして天恵の製鹽地である。現在の鹽田面積は約七千町歩、一箇年五億斤以上の産鹽能力を持つて居る。製鹽の方法は日本内地とは全く異り所謂天日製鹽である。鹽田は極めて簡單で、海水貯水池、蒸發池、結晶池の三部に別れ海水が天日に依つて蒸發し濃縮せる時結晶池に送り鹽が析出するのを採取する方法で其生産費は極めて低廉である。

本室陳列品第二室

水産陳列第二室

主なる陳列品

北滿産淡水魚類標本
關東州近海魚介類標本



られるところである。

北滿の漁業 滿洲には大河、湖沼の數亦尠からず、特に北滿蒙古地帯では宗教上の禁漁撈の結果、淡水魚の棲息多大で、大なる資源の一つである。目下は主として松花江の水系、嫩江、第二松花江、牡丹江の諸地方が其産類の首位を占め、呼倫、貝爾池等が之に亞いで居ると謂はれて居る。

漢藥陳列(廊下)

主なる陳列品

滿洲産漢藥草標本
滿洲産漢藥標本



滿洲産漢藥草は特に栽培せられるものではないが支那に於ては依然多數の漢藥を醫療に供し其種類も四百種以上に達して居る。而して滿洲産は大約百五十種位に上り其産地は主として吉林では長白山脈に沿ふ地方、奉天では東陵の山地、又遼陽では千山の附近で年産額大約百五十萬斤位に上り營口は有名な集散地である。尙滿蒙産漢藥中の甘草は今日藥用以外に味噌、醬油、煙草等の味付原料として日本では多量に使用せられて居る。大連の滿蒙興業會社は此の甘草エキスの製造に當つて居るものである。

(終)

大連市見玉町

昭和七年三月二十八日初版發行
昭和九年十月三十日改訂六版

發行所 大連市見玉町滿洲資源館
編輯者 大連市兒玉町滿洲資源館
印刷者 大連市東公園町三一
印刷所 大連市東公園町三一
發行所 滿洲日報社印刷所



新 藥 刊 版

昭和七年三月二十八日初版發行
昭和九年十月三十日改訂六版

發行所 大連市見玉町滿洲資源館
編輯者 大連市兒玉町滿洲資源館
印刷者 大連市東公園町三一
印刷所 大連市東公園町三一
發行所 滿洲日報社印刷所

終



7
3